

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473100921	事業の開始年月日	平成17年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 大富福祉会		
事業所名	グループホームソフィアライフ		
所在地	(233-0016) 神奈川県横浜市港南区下永谷3-17-10		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年12/20	評価結果 市町村受理日	令和6年4月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>理念にある「その人らしさ」を適えるためには、常に客観的・多角的な視点によるアセスメントが必要と考える。また支援の方向性が統一されなければ計画の目標を達成できず利用者様本位のケアとはなり得ない。ソフィアライフでは日々の申し送りや定例のミーティングのみならず、職員間の良好な関係構築 報告相談のしやすさを心がけており、計画に多角的・客観的な視点を取り入れることができ、利用者様の立場に立ったケアが行えている。また、ご家族への報告や相談をこまめにとることにより、ご家族もチームの一員としてご協力いただけており、ご利用者様の暮らしが安心できるものとなっている。また、外出のままならない中、家庭的な雰囲気や季節感を感じて頂くために、多くの行事やイベントを企画し楽しんで頂いている。来客や訪問者からご利用者様が穏やかな笑顔で過ごしておりホームの雰囲気が温かいとおっしゃっていただけている。日常のご様子 イベント等をInstagramにて発信しご家族 地域の方 施設に興味を持たれている方にご好評を頂いている。□</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年1月25日	評価機関 評価決定日	令和6年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は、横浜市営地下鉄ブルーライン「下永谷」駅から徒歩11分の閑静な住宅街に立地している木造2階建ての個性的なデザインの建物です。災害避難の「行動指針」を整え、協力が得られる同法人の特別養護老人ホームが近隣にあります。ミニ菜園や桜など季節の花木や果樹が植えられた広い庭があるグループホームです。</p> <p><優れている点> 職員間の良好な関係構築に努めています。管理者は、職員の退社時に声をかけるなどコミュニケーションを大事にしています。勤続年数の長い職員が多数在籍し、多くの職員が介護福祉士などの資格取得をし、質の高い支援につなげています。また、理念にある「その人らしさ」を念頭に置き利用者に笑顔がみられるよう心がけ、利用者本位のケアの実践に努めています。肺炎予防を目的とした就寝前の口腔ケアを重視し、車いすごと測定できる体重計を備え毎月測定して健康観察をしています。毎日就寝前に衣服を着替え洗濯に出し、利用者が入浴する度に湯を入れ替える等して衛生管理に注力しています。新型コロナ禍でクラスターを生むことなく経過しています。</p> <p><工夫点> 春は桜の下での野点、秋は高齢者が食べられるように加工したサンマを庭で焼き食す味覚祭などの様々な企画は、利用者から好評を得ています。その様子を写真に残しその日のうちに廊下に掲示して利用者の話題作りや回想に役立てています。また、この写真をInstagramで発信し家族等と共有しています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームソフィアライフ
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念を事務所に掲示し、職員が常に認識し、ケアに活かせるようにしている。新人研修では管理者よりケアの指針であることを伝えている。	事業所の理念「愛のある生活と入居者様の尊厳を大切に考え「その人らしさ」を支援する」等2項を掲げ事務所に掲示し共有しています。利用者の個性や思いを担当職員が把握した上で他の職員と共有し、個別支援に注力して理念の実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議にて情報の共有を図り、地域ケアプラザや相談室などにパンフレットを配布するなどを行っている。	町内会に加入し回覧板や、地域ケアプラザの職員が持参してくれる広報誌で地域の情報を得ています。近隣の看護専門学校の実習生15名を4日間受け入れ、教育の場を提供しています。歌の会などのボランティアの受け入れは、感染状況を見極め慎重に行う意向です。	町内会の協力や、地域とのつながりが保たれることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進委員会等で地域ケアプラザの取り組みに参加依頼を頂いているため、今後は段階的に参加していくことを考えている。また本年より近隣の看護専門学校の実習生の受け入れを行い認知症ケアの教育の場を提供した。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	委員より意見を頂戴している。頂いたご意見や助言を真摯に受け止めケアに反映するよう努めている。また良いと言われた点は職員に周知しより一層のサービスの向上に繋げていく。	運営推進会議のメンバーは、町内会長、地域包括支援センターの職員、薬剤師、家族代表、事業所の職員です。参加者から、熱中症対策目的の「夏場の給水ポイント」に場を提供してはどの意見を受け、関係者等と検討を重ねています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の報告により事業所の実情 取り組みを伝えている。指定更新介護保険の手続等の際、行政の窓口相談 助言を頂き運営規程 重要事項説明書の内容に反映するなど行っている。	港南区の高齢・障害支援課へは運営推進会議の報告書などを郵送しています。地域包括支援センターの職員とは、入居相談などで連絡を取り合っています。生活支援課の職員とは、生活保護費受給者の面会調整などで連携しています。厚生労働省主催の老健事業の協力依頼に応じています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員会議、座談会 委員会を開催。定期的に内部研修を実施し身体拘束についてのマニュアルを確認。緊急時止むを得ない場合 家族と話し合い同意を得て記録、経過確認を実施し行っています。	毎月、身体拘束適正委員会・虐待防止委員会を開催しています。向精神薬の過度な使用につながらないよう月2回の精神科医の訪問診察時に相談もしています。利用者の帰宅願望が見受けられた時には、事務所で飼育しているメダカを眺めながら場面転換したり、庭先に出て気分転換しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議、座談会 委員会を開催。定期的に内部研修を実施し、職員自身の振り返り 職員相互の確認を行っている。報告 相談しやすい環境づくりを図っている。職員のストレス 体調に注意を払い 虐待につながらないように努めている。	「身体拘束適正委員会・虐待防止委員会」を毎月開催しています。8月の研修では、自己点検シートでのチェックやケアの場面での相互確認をしています。管理者は、職員の退社時などに職員に声をかけ、相談しやすい環境づくりに努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	プライバシー保護についての研修に併せ権利擁護に関する制度の理解 活用を学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学、入居時にご家族のお話を傾聴し、一方的な説明にとどまらないよう留意している。契約 料金改定等、必要時には説明 同意を得ることができている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が直接関わることが少ない中でご家族から電話等での相談や意見を発信しやすいようホームから報告をまめにするなどの対応を心がけている。連絡事項は連絡ノートや業務日誌に記載、周知しサービス向上を図っている。	スナップ写真を掲載した季刊発行の「ソフィアだより」の郵送やSNSアプリを使い行事などを発信して利用者の様子を家族等に伝えています。面会時や、年1回実施の家族アンケートで「本人と外出や面会をしたい」等の要望を把握し検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット毎の座談会を毎月実施し職員の意見を聞く機会を設けている。日常においてもコミュニケーションを図り、発言 相談しやすい環境づくりに努めている。	毎月座談会（各ユニットの会議）で職員の意見を聞いています。また、管理者は常時、積極的に職員の意見に耳を傾け相談にも応じています。業務スケジュールの見直しを行い、既定の休憩時間を確保しています。居室担当者の提案などをケアに反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が負担に感じていること、無理無駄を解消するよう安全を確保しながら積極的に業務改善 スリム化を図っている。資格取得 スキルアップを目指すよう研修の資料など閲覧できるようにしている。	余裕をもって利用者と関われるように布団乾燥機の導入などをして職員の負担軽減に努めています。シフトの希望や有休取得の希望も受けています。取得した資格により報奨金が支給されます。職員間の良好な関係構築により勤続年数の長い職員が多数在籍しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	フロアーリーダーへの聞き取り、実際の業務の様子観察を行い職員それぞれのスキルを確認している。内部研修の際は各段階においても学びの場となるような研修内容を企画 実施している。	管理者は職員個々の現在のスキルを把握し、職員の力量に合った内部研修を考え実施しています。製薬会社の水分補給の研修なども取り入れています。介護福祉士などの資格取得者が多数在籍しています。OJT研修を実施し、新任職員のスキルに合わせた人材育成をしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	感染症蔓延予防のため、交流研修を中断している。再開することができれば積極的に実施していきたいと考えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話がしやすい環境を作り、まず自分が信頼してもらうように努める。傾聴のスキルを向上している。意思を言葉にできないご利用者様も多いため観察を怠らず 思いをくみ取れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所相談（電話、見学）を受ける時や、実調に伺った時にアセスメントを行い、不安や要望等に耳を傾けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所相談時の症状・状態だけでなく残された力に焦点を当て、ご家族の思いも踏まえ、支援の仕方 タイミングを見極め 必要があれば他サービス利用等助言させて頂きこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様を人生の先輩と敬い、職員も共同生活の一員と自覚することで家庭的な環境となるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族からは、本人の今までの人生の歴史を伺いアセスメントを更新したり、安心してもらえるような来所時の雰囲気などの環境作りを行ったり、近況報告を行ったりと関係作りに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や手紙などのやり取りをして頂いている。手紙の書き方や電話でのお話など職員が仲介し良好な関係が維持できるよう支援している。	コロナ禍を経て5類移行後も馴染みの友人の来訪は戻っていません。本年は、事業所から家族等に年賀状を出して葉書や電話でのやり取りが進むよう支援しています。新聞購読や乳酸飲料の宅配など、入居前からの生活習慣の継続支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	社交的な方が多いため交流は活発にされているが、ご気分により関係が崩れてしまう場面も少なくないため、良好な関係を維持できるよう職員が予防的に関わるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設に移られた後もご家族が状況報告など連絡を下さっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時に希望や、意向を本人に伺ったり、日々の中での談話の中から思いを汲み取っている。スタッフ間で行う座談会の場でも検討をしている。	日々の利用者との談話の中で思いを汲み取っています。常に心がけている「利用者にとって一番ベストな「その人らしさ」を引き出すケア」について、職員間で意見交換をしています。意志表現が難しい場合は、二者択一の質問で選択しやすくするなど、声掛けを工夫しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や、家族から今までの生活歴や環境、サービス利用の経過等の情報を頂き入居後の急な変化や相違により、大きな不安を抱えることが続かないよう留意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の様子や、本人、家族からの情報により、個々の生活習慣や、性格、心身の状態などを汲み取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	6ヶ月毎のケース会議（ケアプラン作成、中間3ヶ月でモニタリング）、スタッフ間の座談会、各スタッフのアセスメント記入の提出、家族来所時の情報交換などを基に介護計画を作成している。	3ヶ月毎のモニタリングと座談会で利用者それぞれの状態を確認し、職員全体で決定します。家族には面会に来訪した際に説明してケアプランの合意を得ています。3名のケアマネジャーが在籍しています。家族が来れない時は郵送で送る場合もあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の様子等は、個別ケース記録に詳細に記入し、申し送りや、連絡ノート、座談会などで職員間で情報を共有しながら、モニタリング及び見直しも並行して適宜行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時その時のニーズに対して、個別処遇を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染症拡大に伴い、これまでできていた関わりが持てていないが、できるようになったら積極的に参加していきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科往診には必要に応じて家族にも立会いを依頼し、服薬の変更時などには、本人、家族、ドクター、スタッフ間で情報交換などの連携を行いながら決定している。	医師からの情報は、家族も知りたいとの希望が多いため、ケアプラン更新時や服薬変更時に伝えていきます。会議での意見を医師に相談する際は、職員と医療関係者は個別経過を把握できる「医療ノート」で情報を共有しています。救急搬送時は必ず保険証と一緒に持参します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療的に留意が必要な入居者が増加傾向のため、看護師との連携が場面も増えている。相互に情報を共有し入居者の健康面での支援実施を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は病棟看護師や連携室相談員と密に連絡を取り合っている。またご家族と適宜連絡を取り状態の確認や退院に際する不安を解消するよう心がけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所契約時に、家族へターミナルケアについての様々な説明を行ったり、家族の方針なども伺っている。又、早めの段階から家族と話し合いを持ち今後の方針や対応などについて、家族、スタッフ、かかりつけ医間で相談のうえ決定している。	看取りの判断は医師から家族に伝えています。家族と職員ともにチームとし協力体制で看取りケアを行っています。夜勤時間帯の急変時には、職員から管理者へ、また主治医と家族へ連絡するフローができています。365日・24時間体制で、医師との連携した対応に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時対応マニュアルや、各疾患や感染症などのマニュアルがあり、常に確認ができたり、内部研修や新人オリエンテーションの場を活用し、訓練し身につけている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼間や夜間を想定した、年二回以上の避難訓練を実施している。訓練には、管轄の消防所や、自治会長、利用者家族、消防団の方々に参加して頂いている。	非常災害時の備蓄品には充電器や3日間の食品を揃え、消費期限も記載しリストで管理しています。災害時の対応方法について、緊急連絡網や、近隣にある同法人の特別養護老人施設と連携した避難体制など「行動指針」も整備しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や入浴の場面では羞恥心 プライバシーへの配慮に努めている。呼びかけや声掛けには敬語を使うよう心がけることで尊厳を損なわないよう留意している。	利用者のBPSD（周辺症状）が起きている場合は、何に困っているのか、それを知ることが大事とし、十分配慮し声掛けをしています。申し送り時には個人名ではなく、部屋番号で話し、聞こえている利用者の尊厳を損なわないように留意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	適時声かけ行い、本人の会話や表情、仕草などから想いを汲み取るようにしたり、イエスかノーの閉ざされた質問や、選択肢を少なくした質問の活用などで自己決定しやすくなるような工夫も行っている。新聞広告やチラシから本人の希望や要望の確認をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	暮らし方についてはご本人のペースにできるだけ沿うように努める。共同生活を送る上で適わないことに関しては納得していただけるよう言葉を尽くすようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の残存能力に応じて、洋服のコーディネートを決めてもらったり、一緒に決めたり、くしを渡し、整髪をサポートをしたりと個々に応じた支援をしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	業者委託により豊富なメニューを提供できている。誕生会やイベントではご入居者に調理に積極的に参加していただくようにしている。	誕生会や朝食時にパン食を提供する時もあります。青菜など残食の多い食材はみそ汁に使用するなど栄養にも配慮しています。2月には恵方巻を利用者と一緒に作っています。喉につっかえてしまわないように海苔ではなく、薄焼き玉子で代用するなどの工夫もしながら無病息災祈願をしています。	「秋の味覚祭り」など、家族や地域の人の招待により、地域交流を兼ねて、開催実現を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	アセスメントにより、それぞれに応じ食事・水分の形態や量やタイミング等を検討し提供することで必要量を確保できるようにしている。体重の変化に留意し大きく変化があった際は看護師主治医に報告相談をし助言を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	往診歯科医による口腔衛生管理指導を受け、利用者それぞれの状態の観察口腔ケア支援の実施を行っている。特に就寝前の口腔ケアを重視し肺炎の予防に努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し個々に合わせた確認 誘導を行っている。また 意思をうまく伝えられない方のサインを汲み取れるよう職員間の情報の共有に努めている。	個々の排泄の有無をチェック表に記録し、各利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導しています。夜間帯は睡眠を優先し、2時間毎の誘導を吸収量の多いパッドに変更し、間を開けて対応します。転倒リスクの高い人には人感センサーを使用し、自立支援と安全確保に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	状態に応じ牛乳や漢方薬 処方の下剤を調整。ウォシュレットを活用したり、腹部マッサージをしたり、体操やアクティブレクをしたりと個々に工夫をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ゆったりとした気持ちで入浴を楽しめるよう時間に余裕をもって提供している。また季節を感じて頂けるようゆず湯や菖蒲湯なども実施している。提供時間や曜日については概ね決まっているが、拒否が強い時や体調気分がすぐれない時には無理強いをしない順番を変えるなど対応	一対一の入浴介助を基本としていますが、利用者の個々のADL（生活動作）の状況から判断して2人介助で対応し、安全に入浴できるようにしています。シャワー浴の対応もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝前の過ごし方など配慮 空調による温度管理、寝具の調整 個々に応じた照明など安眠につながるよう支援している。また日中の活性を上げ昼夜逆転とならないよう留意しながら 様子体調を見極め、必要な方には静養を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方の変更があった場合 即日連絡 ノートにて周知を行っている。症状の変化については1日2回のミーティングでの申し送り 記録により情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	残された力や得意な事 楽しめることを見極め、それを活かすことができる環境 場面を作り社会性や達成感を味わっていただき意欲向上につながるよう職員一同努めている。また個別で楽しんで寛いだりできる時間も持っていたりできるように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	敷地内にて屋外での行事やレクリエーションなどを企画し解放感や特別感などを味わっていただけるよう支援している。 感染症拡大のため通院以外の外出はできていないが、ご家族からの要望も多く状況に応じ緩和していく予定。	感染症や、利用者の重度化に伴い以前のような外出には至っていませんが、敷地内の広い庭に咲く、河津桜・八重桜・ソメイヨシノの花見や、すもも・柚子など数種類の果樹の楽しみもあります。ミニ菜園での花や夏野菜などの収穫を見る楽しみもあります。お茶会やサンマ祭り、歌のレッスンなども庭で行い気分転換ができるようにしています。	コロナ禍の前のような、外出の機会の再開を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談し、個別で金銭を所持されている方もいらっしゃるが、コロナ禍により買い物等の機会もないため金銭を使っていたりすることはなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	面会が再開され電話での交流は減少したがハガキを頂くことは多い。ご自身で読めない方もいるため代読し電話でご様子を報告したり お声を聞いていただいたりすることで馴染の関係がきれないよう努めている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様の関係性やご様子に合わせ配席を柔軟に変えている。ソファも含めゆったりと過ごせる空間を確保。空調の調整や風が当たらないよう風よけを設置し快適に過ごしていただく工夫をしている。また行事写真やレク作品の掲示で季節感を演出している。	適温を維持し定期的な換気など、感染症対策の一環として確認を徹底しています。また、行事の様子や楽しかった思い出として利用者の笑顔の写真をフロアに飾っています。行事終了2時間後を目途に大きなサイズで印刷し、会話の糸口になるようにしています。メダカも利用者の癒しになるように飼っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前のソファや、フロアのテーブルの席にて、談話したり、テレビを見たり、外を眺めたり、新聞や雑誌、カタログを見たり、自由に過ごせる環境を支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具を持参して頂いている。本人の心身の状態に合わせて、本人、スタッフ、家族と相談し居心地良く過ごせるための環境づくりをしている。ご利用者それぞれに個別担当の職員がおり衣類や寝具の入れ替えや不足等の管理をしている。	家具などのレイアウトの変更は、個別担当職員が利用者の安全の為、動線の確保（転倒防止など）であることを、事前に家族に相談をして了解を得ています。業務の余裕ができる入浴支援がない日曜日に、床などの清掃を行い清潔保持に務め、利用者が過ごしやすい環境に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	アセスメントしたうえで出来ない部分については、自尊心を損なわないようにさり気ないサポートを心掛けている。居室やトイレの表札、トイレの流し方の表示「押す」、電気の操作の表示などを行いサポートしている。		

事業所名	グループホームソフィアライフ
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが ○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに ○ 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念を事務所に掲示し、職員が常に認識し、ケアに活かせるようにしている。新人研修では管理者よりケアの指針であることを伝えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議にて情報の共有を図り、地域ケアプラザや相談室などにパンフレットを配布するなどを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進委員会等で地域ケアプラザの取り組みに参加依頼を頂いているため、今後は段階的に参加していくことを考えている。また本年より近隣の看護専門学校の実習生の受け入れを行い認知症ケアの教育の場を提供した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	委員より意見を頂戴している。頂いたご意見や助言を真摯に受け止めケアに反映するよう努めている。また良いと言われた点は職員に周知しより一層のサービスの向上に繋げていく。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の報告により事業所の実情 取り組みを伝えている。指定更新介護保険の手続等の際、行政の窓口相談 助言を頂き運営規程 重要事項説明書の内容に反映するなど行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員会議、座談会 委員会を開催。定期的に内部研修を実施し身体拘束についてのマニュアルを確認。緊急時止むを得ない場合 家族と話し合い同意を得て記録、経過確認を実施し行っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議、座談会 委員会を開催。定期的に内部研修を実施し、職員自身の振り返り 職員相互の確認を行っている。報告 相談しやすい環境づくりを図っている。職員のストレス 体調に注意を払い 虐待につながらないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	プライバシー保護についての研修に併せ権利擁護に関する制度の理解 活用を学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学、入居時にご家族のお話を傾聴し、一方的な説明にとどまらないよう留意している。契約 料金改定等、必要時には説明 同意を得ることができている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が直接関わることが少ない中でご家族から電話等での相談や意見を発信しやすいようホームから報告をまめにするなどの対応を心がけている。連絡事項は連絡ノートや業務日誌に記載、周知しサービス向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット毎の座談会を毎月実施し職員の意見を聞く機会を設けている。日常においてもコミュニケーションを図り、発言 相談しやすい環境づくりに努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が負担に感じていること、無理無駄を解消するよう安全を確保しながら積極的に業務改善 スリム化を図っている。資格取得 スキルアップを目指せるよう研修の資料など閲覧できるようにしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	フロアーリーダーへの聞き取り、実際の業務の様子観察を行い職員それぞれのスキルを確認している。内部研修の際は各段階においても学びの場となるような研修内容を企画 実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	感染症蔓延予防のため、交流研修を中断している。再開することができれば積極的に実施していきたいと考えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に生活歴やご性格 好き嫌いなどご家族より情報を獲得し、共有した状態でお迎えすることで安心できる言葉掛け等で馴染の関係を速やかに構築できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所相談（電話、見学）を受ける時や、実調に伺った時にアセスメントを行い、不安や要望等に耳を傾けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所相談時の症状・状態だけでなく残された力に焦点を当て、ご家族の思いも踏まえ、支援の仕方 タイミングを見極め 必要があれば他サービス利用等助言させて頂きこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様を人生の先輩と敬い、職員も共同生活の一員と自覚することで家庭的な環境となるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族からは、本人の今までの人生の歴史を伺いアセスメントを更新したり、安心してもらえるような来所時の雰囲気などの環境作りを行ったり、近況報告を行ったりと関係作りに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や手紙などのやり取りをして頂いている。手紙の書き方や電話でのお話など職員が仲介し良好な関係が維持できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	他者と干渉しあうことをあまり好まない方が多いが孤独感や疎外感を感じないよう職員が間に入り穏やかな関係性が維持できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設に移られた後のご家族が状況報告など連絡を下さっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時に希望や、意向を本人に伺ったり、日々の中での談話の中から想いを汲み取っている。スタッフ間で行う座談会の場でも検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や、家族から今までの生活歴や環境、サービス利用の経過等の情報を頂き入居後の急な変化や相違により、大きな不安を抱えることが続かないよう留意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の様子や、本人、家族からの情報により、個々の生活習慣や、性格、心身の状態などを汲み取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	6ヶ月毎のケース会議（ケアプラン作成、中間3ヶ月でモニタリング）、スタッフ間の座談会、各スタッフのアセスメント記入の提出、家族来所時の情報交換などを基に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の様子等は、個別ケース記録に詳細に記入し、申し送りや、連絡ノート、座談会などで職員間で情報を共有しながら、モニタリング及び見直しも並行して適宜行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時その時のニーズに対して、個別処遇を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染症拡大に伴い、これまでできていた関わりが持てていないが、できるようになったら積極的に参加していきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科往診には必要に応じて家族にも立会いを依頼し、服薬の変更時などには、本人、家族、ドクター、スタッフ間で情報交換などの連携を行いながら決定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療的に留意が必要な入居者が増加傾向のため、看護師との連携が場面も増えている。相互に情報を共有し入居者の健康面での支援実施を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は病棟看護師や連携室相談員と密に連絡を取り合っている。またご家族と適宜連絡を取り状態の確認や退院に際する不安を解消するよう心がけている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所契約時に、家族へターミナルケアについての様々な説明を行ったり、家族の方針なども伺っている。又、早めの段階から家族と話し合いを持ち今後の方針や対応などについて、家族、スタッフ、かかりつけ医間で相談のうえ決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時対応マニュアルや、各疾患や感染症などのマニュアルがあり、常に確認ができたり、内部研修や新人オリエンテーションの場を活用し、訓練し身につけている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼間や夜間を想定した、年二回以上の避難訓練を実施している。訓練には、管轄の消防所や、自治会長、利用者家族、消防団の方々に参加して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や入浴の場面では羞恥心 プライバシーへの配慮に努めている。呼びかけや声掛けには敬語を使うよう心がけることで尊厳を損なわないよう留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	適時声かけ行い、本人の会話や表情、仕草などから想いを汲み取るようにしたり、イエスカノーの閉ざされた質問や、選択肢を少なくした質問の活用などで自己決定しやすくなるような工夫も行っている。新聞広告やチラシから本人の希望や要望の確認をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お仲間との生活のリズムが大きくずれないよう配慮しつつ、無理強いすることなくご本人のペースや希望に沿った時間も持っていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の残存能力に応じて、洋服のコーディネートを決めてもらったり、一緒に決めたり、くしを渡し、整髪のサポートをしたりと個々に応じた支援をしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	業者委託により豊富なメニューを提供できている。誕生日会やイベントではご入居者に調理に積極的に参加していただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	アセスメントにより、それぞれに応じ食事・水分の形態や量やタイミング等を検討し提供することで必要量を確保できるようにしている。体重の変化に留意し大きく変化があった際は看護師主治医に報告相談をし助言を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	往診歯科医による口腔衛生管理指導を受け、利用者それぞれの状態の観察口腔ケア支援の実施を行っている。特に就寝前の口腔ケアを重視し肺炎の予防に努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し個々に合わせた確認 誘導を行っている。また 意思をうまく伝えられない方のサインを汲み取れるよう職員間の情報の共有に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	状態に応じ牛乳や漢方薬 処方の下剤を調整。ウォシュレットを活用したり、腹部マッサージをしたり、体操やアクティブレクをしたりと個々に工夫をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ゆったりとした気持ちで入浴を楽しめるよう時間に余裕をもって提供している。また季節を感じて頂けるようゆず湯や菖蒲湯なども実施している。提供時間や曜日については概ね決まっているが、拒否が強い時や体調気分がすぐれない時には無理強いをしない順番を変えるなど対応		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝前の過ごし方など配慮 空調による温度管理、寝具の調整 個々に応じた照明など安眠につながるよう支援している。また日中の活性を上げ昼夜逆転とならないよう留意しながら 様子体調を見極め、必要な方には静養を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方の変更があった場合 即日連絡 ノートにて周知を行っている。症状の変化については1日2回のミーティングでの申し送り 記録により情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	残された力や得意な事 楽しめることを見極め、それを活かすことができる環境 場面を作り社会性や達成感を味わっていただき意欲向上につながるよう職員一同努めている。また個別で楽しんだり寛いだりできる時間も持ってもらえるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	敷地内にて屋外での行事やレクリエーションなどを企画し解放感や特別感などを味わっていただけるよう支援している。 感染症拡大のため通院以外の外出はできていないが、ご家族からの要望も多く状況に応じ緩和していく予定。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談し、個別で金銭を所持されている方もいらっしゃるが、コロナ渦により買い物等の機会もないため金銭を使っていたりすることはなかった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自身で手紙やはがきを書くことが難しいかたが増えたため、ご家族からの事務的な電話の際もなるべくご本人に代わり、会話をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テーブルを変更し、配席を柔軟に変えることができるようにした。ソファも含めゆったりと過ごせる空間を確保。空調の調整や風が当たらないよう風よけを設置し快適に過ごしていただく工夫をしている。また行事写真やレク作品の掲示で季節感を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前のソファや、フロアのテーブルの席にて、談話したり、テレビを見たり、外を眺めたり、新聞や雑誌、カタログを見たり、自由に過ごせる環境を支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具を持参して頂いている。本人の心身の状態に合わせて、本人、スタッフ、家族と相談し居心地良く過ごせるための環境づくりをしている。ご利用者それぞれに個別担当の職員がおり衣類や寝具の入れ替えや不足等の管理をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	アセスメントしたうえで出来ない部分については、自尊心を損なわないようにさり気ないサポートを心掛けている。居室やトイレの表札、トイレの流し方の表示「押す」、電気の操作の表示などを行いサポートしている。		

2023年度

事業所名 グループホームソフィアライフ

作成日：2024年 4月11日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 ・ 40	感染症の予防に努めてきたため、地域との関わりが希薄になり施設の情報が近隣に伝わりにくく 災害時等に協力が得られない可能性がある。	地域 特に近隣の住民の方との関わりを持ち 施設の情報を理解して頂く。	屋外でのイベントやレクリエーションの機会を増やし、入居者や施設の状況をオープンにし交流を持つ機会を増やしていく。	6ヶ月
2	49	集団での外出による感染症蔓延の懸念に合わせ 入居者の身体状況が低下しており、外出の支援の手が不足しており揃っての外出が困難	それぞれの外出を楽しんでいただき活性の向上 ご家族との繋がり維持を図る。	ご家族の協力を仰ぎ、入居者の状態に合わせて無理なく外出の機会を設ける。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月